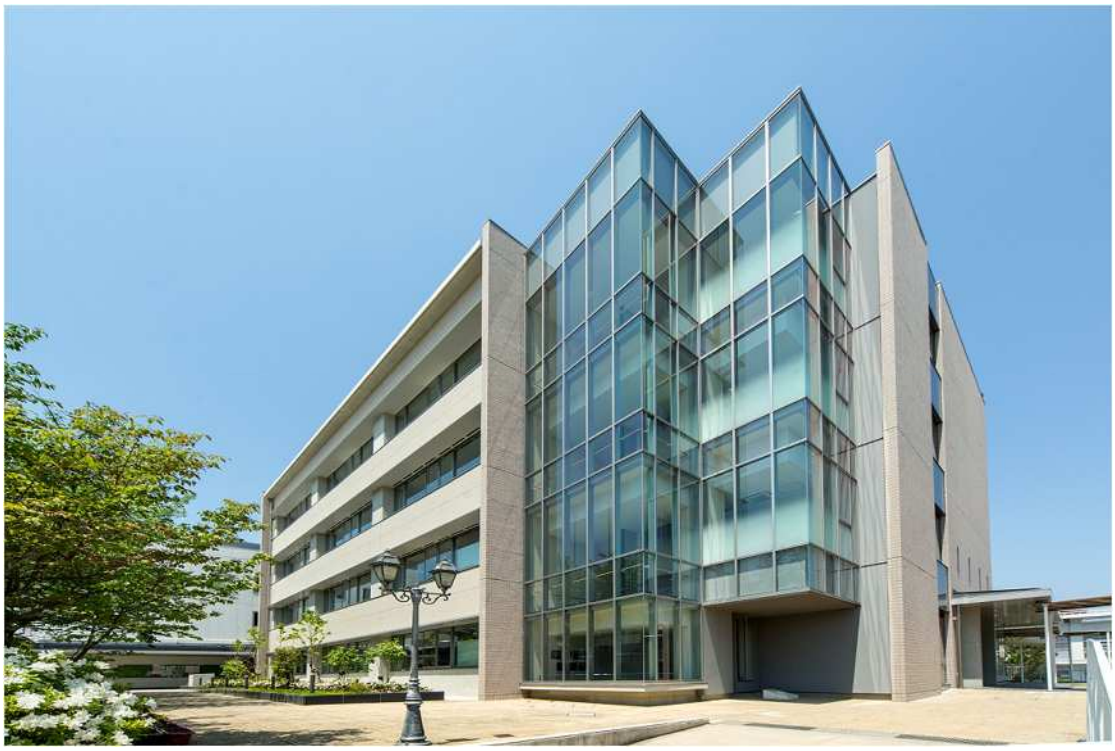

令和７年度

学校評価報告書

帝塚山中学校・帝塚山高等学校

学校法人帝塚山学園

令和７年度学校評価について

帝塚山中学校・帝塚山高等学校は、令和７年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、本校生徒とその保護者、卒業生を対象とした各アンケート結果、保護者等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山中学校・帝塚山高等学校
校長　小林　健

令和７年度　学校評価

１．総括

学　校　名	帝塚山中学校・帝塚山高等学校
建学の精神	社会に有為な人材を育成する
重点目標 （教育目標）	総合的な人間力の育成と進学実績の向上
成果と課題	［成果］ コロナ禍後、２年がたち学校行事も順調に復活している。コーラスコンクールは従来より、また体育大会はコロナ前の「体育祭」から発展して、中高別に充実した開催となった。２０年ほど中高合同で行われた「学園祭」も、４月に高校学園祭、１１月に中学文化祭と中高分けて行っている。本校の生徒が独自に主体的に行事に取り組む場面が多く見られた。生徒の活躍の場面が多く見られる本校の個性を表している。また国際プログラムも完全復活して２年目を迎えた。生徒の希望や結果としての満足度も高い。海外姉妹校との連携もより深くなり、充実したものとなった。進路指導部中心のセミナーをはじめとした生徒の支援も、より充実させ、少しずつ進学実績の向上に寄与している。 ［課題］ 生徒の活動を活発にするべく支援していくものの、そこには必ず生徒の安全の担保が必要である。令和７年度は４月当初に落雷事故が起こり、防ぐことが難しい自然災害ではあったものの、いまだ入院加療中の生徒もいる。３月に出された、学外有識者による「落雷事故調査委員会」からの提言を受け、ハード面ソフト面での対応を現実的に実施し、より安心安全な学校生活を生徒教職員が送れるようにしていきたい。令和９年度よりの高校共学化についても、様々に準備を重ねてきたが、ついに１年前となった。内部進学はじめ外部募集などで遺漏の無いように、内外に周知し丁寧に運営していきたい。

２．自己評価

評価は４段階【Ａ：十分である（よくできた）、Ｂ：ほぼ十分である（できた）、Ｃ：あまり十分でない（あまりできなかった）、Ｄ：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
1　建学の理念に基づく教育目標・教育計画の共有化	①　全教職員に、本校の教育目標及び教育内容を伝える。 （年度始め合同職員会議資料）	A	A	①　年度始めの合同職員会議で学校経営方針を全教職員で共有するとともに、それに基づいた各分掌の計画を確認した。	①　全教職員に、本校の教育目標及び教育内容を共有する。
	②　令和9年度からの男女共学化をふまえ、スクールミッション及びスクールポリシーを公開し運用する。 （ホームページ公開状況）	A		②　策定したスクールミッション及びスクールポリシーをホームページ上に公開した。	②　公開したスクールミッション及びスクールミッションの内容について、教職員や生徒に周知する。
2　教職員の資質及びスキルの向上を図る研修の実施	①-1　生徒指導研修会を実施する。特に「いじめ問題」についての研修を継続して行う。 （研修会実施内容及び実施回数）	A	A	①-1　合同職員会議後の第1回生徒指導研修会(4/9)においていじめ基本方針についての組織的な対応について確認した。教育講演として生駒総合法律事務所 上崎 智代先生をお招きしてご講演いただいた。教員向けアンケートより、満足度87％であった。	①-1　生徒指導研修会を実施する。特に「いじめ問題」についての研修については継続して行う。
	①-2　進路指導研修会を実施する。 （研修会議事録）	A		①-2　10月に進路指導研修会を実施した。	①-2　進路指導研修会を実施する。
	①-3　教育相談研修会を実施する。 （研修会資料等の共有）	A		①-3　神戸セミナーの校長である喜多徹人先生から「保護者対応の仕方について(モンスターペアレンツを作らないコツ～)」という題で、教職員に向けてご講演いただいた。	①-3　教育相談研修会を実施する。
	①-4　人権教育研修会を実施する。 （研修会資料）	A		①-4　11月に人権教育研修会を実施した。奈良県地域日本語教育体制整備事業総括・地域コーディネーター加藤杏子さんを招き、教職員が相手の人格に配慮した言動を心掛けるよう「やさしい日本語講座」の講演を聴講した。	①-4　人権教育研修会を実施する。
	①-5　救急救命研修会を実施する。 （研修会資料）	A		①-5　全教員への救命救急講習会を実施、帝塚山中高救急の日（9月9日）に救命救急に関するホームルームを実施した。	①-5　非常勤を含む全教員への救命救急講習会の実施と避難訓練等での実践訓練、救急の日のHRを実施する。
	②教職員の資質及びスキルを高めるために、校外の研修会にも積極的に参加する。 （校外研修の参加人数(100人以上)）	A		②　奈良県高等学校人権教育研究会、奈良市人権教育研究会、奈良県私立学校人権教育推進協議会、奈良県外国人教育研究会等の研修会へ参加した。	②　教職員の資質及びスキルを高めるために、校外の研修会にも積極的に参加する。
3　教科指導の充実強化	①　引き続き、ICT委員会で各教科別にアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改革を協議を踏まえ実践する。 （学校評価アンケートの該当項目での満足度80％以上）	B	B	①　ICT教育の推進に関して情報交換を行い、各教科で推進した。ICTを利用した教具・教材は、教員ドライブで共有し、授業担当者の教材作成の負担を分散した。また、担当者による授業内容の差をなくした。	①　引き続き、ICT委員会で各教科別にアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改革を協議を踏まえ実践する。
	②　授業、ホームルーム、個人面談、保護者会でのICT機器の活用を推進する。 （学校評価アンケートの該当項目での満足度75％以上）	A		②　授業だけでなく、個別面談では、電子黒板とタブレットを使い、生徒が保護者と担任にプレゼンテーションを行った。保護者会でICT機器を用いた説明を行った。	②　授業、ホームルーム、個人面談、保護者会でのICT機器の活用を推進する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
3　教科指導の充実強化	③　中学1年生～高校2年生を対象に、AIドリルとして、Qubena（5教科）とMonoxerを利用する。また、Classroomによるデジタル課題を利用する。 （情報端末の利用に関するアンケートにおける満足度75%以上。AIドリルの各月利用率90%以上）	C	B	③　情報端末を導入した全クラス（全学年）において、授業ごとのClassroomを作成し、連絡手段として活用した。AIドリルについての利用率はクラス間の利用率の差が大きくなった。	③　中学1年生～高校2年生を対象に、AIドリルとして、Qubena（5教科）とMonoxerを利用する。また、Classroomによるデジタル課題を利用する。
4　自主活動の充実強化	①　スポーツ大会のほか、高校学園祭・中学文化祭の企画・運営をする。また、引き続き中学リーダー研修会を実施する。 （学校評価アンケートの該当項目での満足度75%以上）	B	B	①　（高校）高校学園祭では、高校生学園祭実行委員に主体的に役割を持たせ、ケータリング業者と連携し、有意義な生徒会活動となった。保護者アンケートの結果から「学園祭」においては満足度76.3%を得ており、概ね目標は達成した。 （中学）今年度は、中学スポーツ大会は学内にて男女に分かれて実施。中学リーダー研修会については、外部企業と連携し、2学期に実施をした。行事に向けてリーダーシップを発揮する取り組みとしたい。保護者アンケートの結果から「文化祭」においては今年度も満足度55%程度。目標は達成出来ていない。	①　スポーツ大会のほか、高校学園祭・中学文化祭の企画・運営をする。また、引き続き中学リーダー研修会を実施し、様々な場面でリーダーシップを発揮する力を付けさせる。
	②　クラブ活動と学習の両立を図る。 （育友会、体育文化後援会発行の「中学校・高等学校文化部・体育部活動記録」に記載して教職員、保護者に開示）	B		②　（高校）クラブ活動への満足度は80%程度を得ているものの、文武両立に関しては満足度が55%弱と十分な評価を得ていない。高校生の入部率は68%であり、昨年までの4割から増加した。 （中学）学業との両立という面では、保護者アンケートにおいて満足度57%に留まった。	②　クラブ活動と学習の両立を図る。中学生は全入制を廃止する方向となるが、積極的参加を促す。
5　人間力の育成	①-1　各ホームルーム担任が、教科書、その他の教材を用い、クラスの状況に応じて人権教育・道徳教育を実践する。 （「人権教育通信」「推進委員会だより」）	A	A	①-1　学期の始めに各学年がホームルーム実践計画を立て、学期の終わりにホームルームの実践報告書を提出した。	①-1　各ホームルーム担任が、教科書、その他の教材を用い、クラスの状況に応じて人権教育・道徳教育を実践する。
	①-2　各学年推進委員と人権教育推進委員、管理職からなる委員会を定期的に実施する。 （「推進委員会だより」）	A		①-2　管理職、各学年の推進委員、新任教員、事務局で各学期に2回人権の会議を開催し、各学年のホームルームの様子や実施したアンケート結果を報告し、共有した。	①-2　各学年推進委員と人権教育推進委員、管理職からなる委員会を定期的に実施する。
6　キャリア教育、国際理解教育の充実強化	①　キャリア教育、校外学習などを実践する。 （特色教育実施内容及び実施回数）	A	A	①　卒業生など、各分野の第一線で活躍するプロフェッショナルを招聘した講演会や出張講義を開催し、将来のキャリアイメージ構築の一助とした。また、コース毎学年ごとの校外学習を実施した。	①　キャリア教育、校外学習などを実践する。
	②　シアトル海外研修、男子ハワイ・サイエンスキャンプ、女子サンディエゴ・STEAMプログラムの内容を充実させる。　高校1年生の帝塚山エンパワープログラム及び高校2年生のボストン研修を実施する。 （各プログラムでの参加人数（30人以上）、ボストン研修実施報告書、帝塚山エンパワープログラムアンケート報告書）	A		②　海外研修プログラムはすべて規定の参加人数かそれ以上の人数で実施することができた。内容も従来より高いレベルでの教育活動を取り入れた。帝塚山エンパワープログラムについても今年度は多くの参加者があり、充実した内容で実施できた。	②　シアトル海外研修、男子ハワイ・サイエンスキャンプ、女子サンディエゴ・STEAMプログラムの内容を充実させる。高校1年生の帝塚山エンパワープログラム及び高校2年生のボストン研修を実施する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
6 キャリア教育、国際理解教育の充実強化	③ グローバルキャリア発表会、講演会を継続実施する。 （発表資料、講演資料）	A	A	③ 外部から講師を招聘し、年5回の講演会を実施した。内、2回は対面で3回はオンライン形式であった。	③ グローバルキャリア発表会、講演会を継続実施する。
7 規範意識と自律性の育成	①−1 いじめアンケート及び生徒規程の点検を継続実施する。 （学校評価アンケートの該当項目での満足度70%以上）	B	B	①-1 月1回の情報交換会並びにいじめアンケートを年2回実施することにより、早期発見早期対応が可能となり、ある一定の成果をあげている。また、生徒規定の点検も継続的に行っており、【制服の移行期間廃止】【休日等のクラブジャージでの登校】など規定の一部運用変更を実施し、今年度は部鞄に関しても手を加えた。保護者アンケート、生徒規定に関する項目での満足度は68%。目標値より多少下回った。	① いじめのアンケートを最低でも2回実施する。情報交換会においても他学年の事象などを共有し、未然防止生徒指導に努める。また、生徒規定においても引き続き点検・改良を重ねる。
	①-2 中学校朝礼、アセンブリを通じて生徒指導を実施する。 （学校評価アンケートの該当項目での満足度70%以上）	B		①-2 （高校）アセンブリを適宜実施し、効果的な指導成果をあげている。部活動の表彰も適宜実施出来た。 （中学）毎週月曜日に朝礼を実施し、帰属意識、規範意識を高めた。また他者理解、自己・他者肯定を深める場として効果が今後も期待できる。部活動の表彰も適宜実施出来た。	① 中学校朝礼、アセンブリを通じて生徒指導を実施する。
	②−1 月に1度、各学年の不登校生徒などの情報交換会を実施する。 （学校評価アンケートで「生徒指導について：生徒の特徴や諸事情に配慮した指導に関して」の回答で3以上の割合。（目標値：95%））	A		②-1 月に1度、生徒の登校状況や相談事案、保健室利用状況などについて、基本的にスクールカウンセラーも入って中高別に情報交換会を実施した。	②-1 月に1度、各学年の不登校生徒などの情報交換会を実施する。
	②-2 スクールカウンセラーによるカウンセリングを通して、家庭環境や生育歴などの背景を把握し、心理学的な観点から個別・学年・全校を対象にサポートを強化する。 （カウンセリング・コンサル・講演会・情報紙発行等の実施状況）	A		②-2 落雷事故において、帝塚山大学心理学部に協力を仰ぎながら、参加クラブの生徒全員にカウンセリングを行なった。 ②-2 スクールカウンセラーによる相談活動によって心理学的観点からのサポートを行った。 ②-2 中学1年の生徒を対象に、スクールカウンセラーによるメンタルヘルスケア講演会(アンガーマネジメント講演)を実施した。 ②-2 中学3年の生徒を対象に、緩和ケアを担当しスクールカウンセラーでもある佐々木慈瞳先生による講演会(「いのちの大切さ」)を実施した。 ②-2 スクールカウンセラーのコラムや相談機関の紹介などを掲載した「教育相談室だより」を各学期に発行し、生徒や保護者に情報提供を行った。	②-2 スクールカウンセラーによるカウンセリングを通して、家庭環境や生育歴などの背景を把握し、心理学的な観点から個別・学年・全校を対象にサポートを強化する。
8 進路指導の充実強化	①-1 保護者、生徒対象に進路指導講演会を実施する。 （進路状況報告書）	A	A	①-1 高3保護者会で進路指導部長より、中学保護者会（希望者）では外部講師（河合塾・近畿営業部）より入試情報や進学情報について講演していただき、情報の共有を図った。また、生徒対象については高校全学年で各2回進路に関するアセンブリや外部講師による講演会を実施した。	①-1 保護者、生徒対象に進路指導講演会を実施する。
	①-2 現役生徒、過年度生の進路状況と在校時の成績とひも付けて分析する。 （進路状況報告書、難関国公立50名以上）	A		①-2 現役生徒、過年度生ともに確定した進学先を調査し、まとめた。また、在学時の成績とともに分析し、次年度の教員用研修会議である進学実績報告会の資料としてまとめた。難関10大学と国公立大学医学部の総計数は77名と目標は達したが、京都大学の合格者数が少し伸び悩んだ。	①-2 現役生徒、過年度生の進路状況と在校時の成績とひも付けて分析する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
8　進路指導の充実強化	①-3-1　教務部、進路指導部が中心となり各種入試分析会への参加と情報の共有化を行い、令和8年度大学入試に向けた校内分析会を行う。また、学年会・教科会とも連携を密にし、学校全体で難関大学合格など生徒の進路実現にむけた進路指導体制の構築を目指す。（令和8年度大学入試への対策）	A	A	①-3-1　進路指導研修会では進路指導部長・副部長による実績の現状報告や情報の取扱い、推薦の考え方など最新の入試トピックについての共有を行った。加えて、各種研究会への案内は定期的にメールにて周知して自主研修を働きかけた。その結果、推薦に対して低学年から高大連携講座への促進を各学年単位で後押し、参加者の増加につながった。	①-3-1　教務部、進路指導部が中心となり各種入試分析会への参加と情報の共有化を行い、令和9年度大学入試に向けた校内分析会を行う。また、学年会・教科会とも連携を密にし、学校全体で難関大学合格など生徒の進路実現にむけた進路指導体制の構築を目指す。
	①-3-2　大学入試に向けたセミナー講座などの設置及び効果的な実施を各教科で検討し、講座内容を決定する。 （大学入試セミナー講座内容及び受講人数（目標値70%以上））	A		①-3-2　教科主任を中心にセミナー講座の設定についての検討を重ね、学年主任やコース部長による確認・議論を経て適切な講座内容を決定した。また、京大阪大対策講座「おけいはん」、神大公立大対策講座「神快速」基礎対策講座「ひのとり」、推薦対策講座、高2対象「おけいはんZERO」、高1対象「おけいはん-1.0」など新しい枠組みを作り運営した。大学入試セミナーや補習講座を受講した生徒については80%を超えた。	①-3-2　大学入試に向けたセミナー講座などの設置及び効果的な実施を各教科で検討し、講座内容を決定する。
9　教員評価・教育成果の検証	①-1　保護者アンケートを実施し、アンケート結果のうち60%以下の項目について対応する等、その結果を積極的に活用する。 （学校評価アンケートの該当項目での満足度（目標値：80%））	A	A	①-1　6月に2、3年生の保護者アンケートを実施した。集計結果をまとめ11月の保護者会で報告した。いずれの学年も、総合的満足度を尋ねた項目では、肯定回答が80%前後あり、概ね本校の教育を評価していただいている結果となった。	①-1　保護者アンケートを実施し、アンケート結果のうち60%以下の項目について対応する等、その結果を積極的に活用する。
	①-2　Classroomを用いた新たな授業アンケートを開発し、実施する。 （授業アンケート結果における満足度75%以上）	A		①-2　利用できる教員から授業アンケートのデジタル化を行った。今後も進めていきたい。	①-2　Classroomを用いた新たな授業アンケートを開発し、実施する。
	①-3　重点目標を踏まえた自己評価結果に基づき、教員評価を実施する。 （教員評価結果）	A		①-3　自己評価をGoogleフォームを使って実施した。そのことにより、記入量が増え、自己の分析につながった。	①-3　重点目標を踏まえた自己評価結果に基づき、教員評価を実施する。
10　各学校との連携強化	①勉強合宿や共通テスト自己採点などで適切に大学施設を利用する。また併設校特別推薦の告知を徹底し、大学の入試広報課と連携をとって内部進学率向上を図る。 （進路状況報告書）	A	B	①　高2女子を対象とした勉強合宿で大学と連携を取り、東生駒キャンパスの施設を利用して実施した。また併設校特別推薦の告知を徹底し、大学の入試広報課と連携をとって内部進学率向上を図り、志願者数は昨年度を上回った。	①　勉強合宿や共通テスト自己採点などで大学施設を利用する。また併設校特別推薦の告知を徹底し、帝塚山大学の入試広報課と連携をとって内部進学率向上を図る。
	②　「小中内部進学推薦制度」により、内部小学校からの進学者の増加を図る。 （内部進学率の増加（60%以上）　）	B		②　内部進学率については、目標に達しなかった。	②　「小中内部進学推薦制度」により、内部小学校からの進学者の増加を図る。
	③　国公立大学との連携を密に行い、キャンパスツアー等の実施を計画し、生徒への参加を促す。 （進路状況報告書）	A		③　京都大学、大阪大学、神戸大学へのオープンキャンパスを企画し、引率した。京都大学では、大学の入試課と連携し、100名収容の講義室を借り、卒業生20名ほどに協力してもらい実施した。	③　国公立大学との連携を密に行い、キャンパスツアー等の実施を計画し、生徒への参加を促す。
11　組織運営の充実強化	①-1　毎週1回運営委員会を実施する。 （議事録）	A	B	①-1　月曜日の3限に定期的に校務分掌長・コース部長・学年主任からなる運営委員会を開催し、学校運営の強化を図った。	①-1　毎週1回運営委員会を実施する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
11　組織運営の充実強化	①-2　各教科、ICT教育、アクティブラーニング等、教育内容の研修を行う。 （授業アンケート結果における満足度75％以上）	B	B	①-2　AIドリルの研修会（DX研修および国語・数学・社会・理科の教科会）を実施した。（授業アンケート結果における満足度69％）	①-2　各教科、ICT教育、アクティブラーニング等、教育内容の研修を行う。
12　安全管理・保健管理の実施	①-1　救命救急講習会を充実させる。救命救急医による研修及び消火訓練の実技研修を行う。 　発災に備えて、発災時の緊急体制の構築と学校危機管理に関する研修およびさまざまな感染症に対する研修を行う。 （救命救急講習会の実施内容及び研修回数）	A	A	①-1　非常勤講師を含む全教員に救命救急講習を実施。非常勤講師に関しては、新年度の初回授業までに行うとともに、専任教員のうち、任用3年目までの教員は、新任研修として2時間の講習を実施。その他教員は第1回定期考査中に実施し主な学校行事の実施前に行った。	①-1　救命救急講習会を充実させる。救命救急医による研修及び消火訓練の実技研修を行う。 　発災に備えて、発災時の緊急体制の構築と学校危機管理に関する研修およびさまざまな感染症に対する研修を行う。
	①-2　教室の配置をもとに緊急時の避難経路の見直しと避難経路を再考する。クラス人数をもとに最適な避難経路を検討する。 　雨天時等のグランドへの避難が困難な場合等の最適な避難場所を検討し、避難訓練を実施する。 （避難訓練実施報告書）	A		①-2　今年度は発災後のさまざまな状況を生徒が想定し、対応・対処するために必要な準備や行動について、グループワークで検討しあい、全グループに報告させた。	①-2　教室の配置をもとに緊急時の避難経路の見直しと避難経路を再考する。クラス人数をもとに最適な避難経路を検討する。 　雨天時等のグランドへの避難が困難な場合等の最適な避難場所を検討し、避難訓練を実施する。
	②　健康診断を通じた保健指導を行うとともに、学年旅行における食物アレルギー事故防止に努める。また、保健教育講演会を実施する。 （配付文書、講演会資料、宿泊行事結果報告）	A		②　全生徒にアレルギー情報を報告させ教員への周知を行った。 旅行実施前にも再度確認し、旅行中の安全を図った。 保健教育講演会を高3を除く全学年で実施した。	②-1　健康診断を通じた保健指導を行う。 ②-2　学年旅行における食物アレルギー事故防止に努める。 ②-3　保健教育講演会を実施する。
13　入試及び募集活動の強化	①　募集対策担当教員による関係機関との情報交換を密にする。 （出願者数（中学校目標値:1,800名、高校目標値:800名））	B	A	①-1 中学出願者数は1,604名（昨年より201名減）となり、目標値を達成できなかった。高校出願者数は923名（昨年より37名減）となったが、目標値を達成した。	①　募集対策担当教員による関係機関との情報交換を密にする。
	②-1　クラブ活動など生徒の様子を多く紹介し、ホームページの充実を図り、アクセス数を維持する。 （ホームページアクセス数（目標値:20万件））	A		②-1　クラブ活動や特色教育の内容を多く紹介出来た。新しくインスタグラムを立ち上げた。	②-1　クラブ活動など生徒の様子を多く紹介し、ホームページの充実を図り、アクセス数を維持する。
	②-2　説明会・各ブース等で本校教育内容の理解を深めてもらう等、募集情報（本校の教育内容）の見せ方を工夫する。 （説明会の参加人数（前年比5％増））	A		②-2　京都、梅田、阿倍野で各1回、学校では3回と、動画による説明会を実施した。	②-2　説明会・各ブース等で本校教育内容の理解を深めてもらう等、募集情報（本校の教育内容）の見せ方を工夫する。
14　学校評価の実質化	①-1　ICT教育を中心に各教科の授業研究を推進する。各教科の公開授業を行い、教員、生徒のアンケート結果を基に、より効果的な内容を検討する。 （公開授業指導案、教員及び生徒アンケート結果における満足度75％以上）	A	A	①-1　公開授業を多くの教科で行った。ICT教育の推進に関しても常に情報交換を行い、各教科推進した。	①-1　ICT教育を中心に各教科の授業研究を推進する。各教科の公開授業を行い、教員、生徒のアンケート結果を基に、より効果的な内容を検討する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（　）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策
14　学校評価の実質化	①-2　各教科授業アンケートを継続実施するとともに、その結果を踏まえ自己評価を実施する。 (授業アンケート結果又は結果報告書)	A		①-2　各教科で授業アンケートを実施した。できる人から、デジタルによるグーグルフォームを使ったアンケートを実施した。	①-2　各教科授業アンケートを継続実施するとともに、その結果を踏まえ自己評価を実施する。
	②　学校関係者評価委員会を開催し、評価結果を踏まえ対応可能な内容を実行する。 (学校関係者評価において指摘された項目の改善の進捗状況)	A	A	②　5月9日に学校関係者評価委員の方々にご来校いただきご意見をいただいた。	②　学校関係者評価委員会を開催し、評価結果を踏まえ対応可能な内容を実行する。
15　経営安定化策の強化	①　引き続きさくら連絡網を活用することと、どうしても発生する紙資料の質の見直しにより、印刷費の削減を実現する。 (印刷費の節減及び教員の作業の軽減)	A		①　さくら連絡網を活用し、従来印刷して配布していた案内や冊子をPDFで配布した。	①　引き続きさくら連絡網を活用することと、どうしても発生する紙資料の質の見直しにより、印刷費の削減を実現する。
	②　令和8年度中学校入試において、9クラス編成を実現させる。 (クラス数(目標値:9クラス))	B	B	②　令和8年度中学入試の結果、入学者は355名、10クラス編成となった。	②　令和9年度中学校入試において、9クラス編成を実現させる。

３．学校関係者評価

学校関係者評価実施日：令和８年５月８日

学校関係者評価委員会委員：育友会会長、体育・文化後援会長、体育・文化後援会副会長、帝塚山小学校校長

意　見	改　善　方　策
「4.自主活動の充実強化」について、部活動や文化発表会などの行事活動が縮小傾向になりつつあるように思われる。	教員の労働環境に関する昨今の世情を踏まえ、クラブ顧問については挙手制をとっており、先生方の協力に基づくものである以上、部活動における教員の取組体制についても見直しを行わざるを得なかった。現状の体制を都度見直しつつ、先生方の協力のもと部活動および行事活動を維持していけるよう引き続き検討していく。